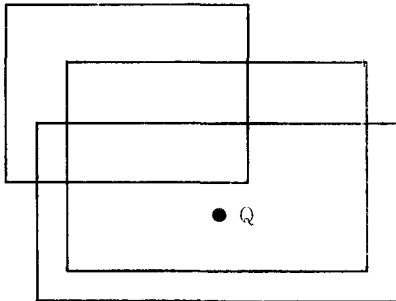
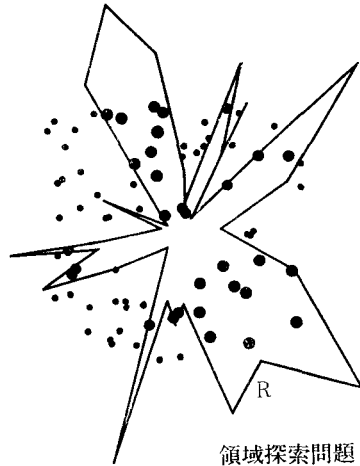


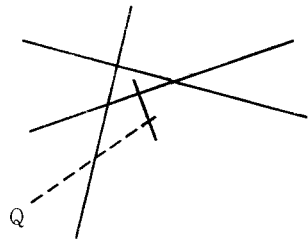
点位置決定問題



点包囲問題



領域探索問題



線分交差探索問題

CAD をとりあげている。地理情報処理においては、点であらわされた人口分布に対して任意の領域が与えられたときにその領域内の人口を求める問題等に幾何学的探索問題があらわれる。本論文では実際に大宮市のデータを用いて計算機実験を行ない、その実用性を確かめている。VLSI 設計においては、論理接続チェックと呼ばれる作業などに幾何学的探索問題が用いられる。VLSI の

マスクパターンにおいては、配線を表わす図形集合とそれらをつなぐコンタクトによってすべての回路があらわされている。この設計は人手によって行なわれており、それが正しい回路をあらわしているかどうかチェックする必要がある。これが論理接続チェックである。この作業は、ある図形に含まれるコンタクト、あるコンタクトを含む図形を探索し、電気的接続をチェックすることに

### モース博士死去

元マサチューセッツ工科大学教授、初代 IFORS 会長 Philip M. Morse 博士は去る 9 月 5 日マサチューセッツ州コンコルドのエマソン病院において死去されました。享年 82 歳。

同博士は第二次世界大戦中音響学の専門家として、米海軍の対潜水艦システムの評価という仕事にたずさわりましたが、この間英国から伝えられたオペレーションズ・リサーチに接し、機器の運用という面に科学の光をあてることによって大きな業績を上げられました。これに対し民間人としては最高の Presidential Medal for Merit が授与されました。Kimball 氏との共著“Methods of Operations Research”はこの当時の研究を伝えるものとして広く知られています。

戦後、いったん古巣のマサチューセッツの工科大学にしばらく戻られた後、各所において OR の定着と普及のため多面的な活動をされました。1957 年 IFORS (国際 OR 学会連合) を結成、初代の会長をつとめました。

わが国も前後 2 回にわたって訪問され、そのたびに講習会等を通じて OR の普及につとめられました。わが国の OR ワーカー、特にその草わげの方々の中には同博士の警咳に接した方々も少なくありません。

引退された後は、悠々自適の生活を送っておられるとのことでしたが、このたびの訃報に接し OR が第二次世界大戦中に生まれてから、すでに 40 年以上が経過したことを思わずにられません。

博士の御冥福をお祈りします。